

特集―林業―

山を守る

森林面積が7割を占める宇和島市。養殖マダイや真珠などとは違い、派手な印象こそありませんが、林業も大切な産業の1つです。山は、土砂災害や地球温暖化の防止など、私たちが生活をする上で大変重要な働きを担っています。その母なる山を守り、育てているのが、林業に携わる人たち。

先代から受け継ぎ、次の世代に残すことを使命とする人、管理されずに放置された山に目を向け活用する人、新たな雇用につなげ地域を活性化させようと奮闘する人。

今月は、さまざまな形で山を守っている人たちを紹介します。

守り、受け継ぐ



山を守る第一線を担うのは、フォレストワーカーと呼ばれる林業従事者。先代が守ってきた山を受け継ぎ、守り抜く。彼らの仕事は、私たちの生活を影で支える大きな役割も担っています。



新たな担い手

バキバキバキ。山奥に入るにつれて、激しい音が聞こえてきます。

津島町の現場で林業に従事するのは、千葉県から移住してきた飯島さん。宇和島市が募集していたフォレストワーカーに応募し、移住した1人です。

林業従事者の減少を背景に制度が整備され、飯島さんのほかにも14人が県外から移住し林業の担い手として活躍しています。また、新規就業後3年間は国の制度を利用して、研修生として現場に出ながら給料が支給されます。

林業の魅力

飯島さんは、はじめは木を切ることにやりがいを感じたそうです。しかし、現場に出て3年が経ち、それだけではない魅力を感じるようになりました。

ほかの産業と比べ「物」としての成果が見えにくい林業。自分が植えた木が「材」として伐採されるのは約半世紀先の遠い将来の話です。

現在、間伐をしている木は約50年前に植えられた木々。飯島さんは、「先代たちが植えた木を大切に育てていく責任感。また、植栽活動などを通して次の世代に残していく使命感。すぐには目に見える成果を感じにくいけれど、林業には世代を超えて山を守り続けていくという魅力がある。」と話してくれました。

世代を超え、受け継ぐ

森林は豊かな水を作り、海の恵みにつながります。次の世代に残していく木を植えることで、緑豊かな森林は守られ続けます。世代を超えて受け継がれている彼らの仕事は、将来の宇和島の産業だけではなく、私たちの生活を支える役割も担っています。



◀間伐作業：木材の供給のために切るだけではなく、今ある木を太く立派に育てていくための間伐も山を守っていくための大切な作業です。間伐が適切にされず、密集して生えている環境の中では、生育を妨げる原因になります。

大きく育った木は山にしっかりと根を張り、土砂災害などに強い山を作ります。



▶集材・運搬：伐採した木は重機を使って運び出され、原木市場などに運ばれます。

昔は人力で運び出されていたことを考えると、先代たちの苦労が想像できます。



▲伐採後：間伐が行われた後の山は日の光が差し込み、風通しの良い状態に。



▼植栽活動：木を切り終えた地を再度整備し、次の世代に残していく木の苗を植えます。

苗はシカやイノシシなどからの被害を防ぐために、防護ネットを張り保全していきます。



守り、活かす

木・竹材価格の低下などより、管理されずに放置された竹林。放置されたことにより、土砂災害や園地の荒廃につながるものが懸念されています。そんな現状を打破しようと竹を活用し、山を守ろうとする取り組みを紹介します。

タケノコ掘り体験ができる
キャンプ場に



▲チップ状に砕かれた竹
地面を覆う毛布のような役割を果たします。

津島町南楽園のオートキャンプ場敷地内にある竹林で、放置竹林に対する取り組みを県が行っています。間伐を行い、切り出した竹を細かくチップ状にして、山に散布します。これが、地面を覆う毛布のような役割を果たすことで、タケノコが育ちやすい状態になるそうです。

また、伸びきってしまったタケノコは食用に向かず放置されることも問題になっています。乾燥タケノコに加工する技術を向上させ、これまでに活用していなかった部分を活用し、生産者の所得向上につなげる取り組みを計画しています。

「今後は、キャンプ場でタケノコ掘り体験を企画できれば」と担当者は話します。カブトムシなどが寄りつき、子どもたちも楽しめるスポットになることに期待が膨らみます。



▲竹を粉碎する様子
竹にはミネラル分が多く、
良い肥料になります。

吉田町でかんきつ農家を営む薬師寺さんは、チップ状にした竹を園地にまき、かんきつの肥料として活用しています。放置された竹は、園地に進入するなどかんきつ農家にとっても問題になっていますが、費用と時間がかかることからそのまま放置されることが多いそうです。

薬師寺さんは、「竹はもともとミネラル分が多く、細かく砕くことで良い肥料になる」と話します。その竹を活用したかんきつをブランド化し、販売しています。

薬師寺さんが大切にしているのは、どんなことでもアイデア次第で活かすことができるという想い。山の中で再び活用させるというこのサイクルも、そういう想いから生まれました。「何事にも、こういう姿勢が求められるのではないだろうか」と話してくれました。

竹を活かしてブランド化



守り、育つ

現場以外でも林業に携わることはできないだろうかと、新たな付加価値を加えようと取り組んでいる人がいます。林業そのものを守ること、地域が育つ。地域の活性化につながる新しい挑戦に迫ります。

エッセンシャルオイルの作り方



原料には、ヒノキの幹と葉、スギの葉を使用。水蒸気を利用して、機械に入れた原料を蒸し続けオイルを抽出します。抽出されたオイルは原料別に香りが異なり、混ぜることで自分好みの香りを楽しめます。

安定した雇用を

津島町山財で木材伐採業を営む藤原さん。数年前までは、県外で通信関係の仕事に携わっていました。

父の代から始まった林業。藤原さんは2年前にサラリーマンから転職しました。「雨が降れば仕事がなく、給料ももらえない」という日給月給制の賃金体型に改めて衝撃を受け、なんとか、雇用している従業員に固定給を払えないかと考えました。

雨で山に入れないときは仕事がありません。代わりとなる仕事があればー。そう考える中で、木を切った後に残される廃材に目がとまりました。

た。なんとか活用できないかと考え、ヒノキなどからとれるオイルに着目。香りを楽しめるエッセンシャルオイルの開発に取り組みました。

守り、育てたい

藤原さんの中にあるのは、「宇和島の林業を守っていききたい。そして、地域の産業として注目して欲しい」という気持ち。さまざまな形で林業に携わる人を増やすことができれば、自然に地域も活性化するのではないかと考えています。林業そのものを守ること、地域が育つ。藤原さんは新たな一歩を踏み出しました。

技能ひろば

高等技術専門校を一般開放します。

【とき】12月9日(日) 午前10時～午後2時

【ところ】県立宇和島高等技術専門校

【内容】作品展示、木育コーナー(木の球プール、積み木、ウッドカーリングなど)

【問合先】県立宇和島高等技術専門校

☎22-3410

